Community & Friend

2021 年 10 月号

有限会社アルファー
大阪府高槻市氷室町 4-13-3
吉田 清一郎

平素は、弊社商品にお取り組み頂き、
まことに、ありがとうございます。
月間通信 10 月号をお送り致しました。
何卒、よろしくお願い致します。

When both body and mind are at peace, all things appear as they are: perfect, complete, lacking nothing.

Dogen Zenji

Freedom is an experience felt as our nature shines forth unburdened, unattached, free of the ego.

通っている語学学校で、2 回目の登校をした時、講師の Robert に学校の CEO の宗接氏が聞いた。『こいつ、どうだ？』 Robert 応えて曰く 『He's genius 』。友人でもある宗接氏が『 褒めすぎだ 』と言ったけど、私は Genius なる英単語を知らなかった。私が天才だと最初に思った人は、ダイエー創業者の中内功氏だ。

1995 年阪神淡路大震災の後、神戸三宮の商店街も大惨事に陥った。東京からヘリで関西入りした中内氏が、商店街の半地下の店に立ち寄り、竦んでいる社員に向かって『**何をしている !! 直ぐに焼きそばを焼いて、みなさんに提供しろ !!**』と叫び、次の店舗に進んだ。数時間後にその焼きそばの店に戻ってみると、半地下の**店舗入口の中で焼いていた**社員に対して、『 **バカヤロー（と言ったかどうかしらないが）こんなところで・・・ 道路に出てやれ !! 』と尻を蹴飛ばした** との記事を読んだ時のことだ。氏は 70 歳を超えており、私は 40 を少しだけ過ぎた頃だったので、とてつもなく年上に思えた。その年代に達しても尚、社員の尻を蹴飛ばせる、こういう人が天才なのだと思った。

信念から来る夢を持ち続け、ひとに尽くすためには自分のみならず、ひとに対しても厳しく接することが出来る人物を私は天才と呼ぶことにしている。このようなひとが、世に貢献し、暮らしやすい社会を作っていくのではないかと思った。

中学 1 年の私にある日『何でもいいから本を読んで、その感想文を提出しろ』との宿題が出た。こういう宿題は外せない。

普段の宿題はまったくせず、宿題をして来なければ廊下に立つ事になっていて、私はどうせ立てと言われるなら、初めから立っておこうと授業が始まる前から廊下に立っていた。既に立っている私に怒った担任が、廊下ではなく『職員室に行って立ってこい』と言った。すごすごと、職員室に向かい、その廊下に立っていた。この後面白い出来事が起こり、相思相愛の数学の担任教師が偶然通りかかり、『お前 何やってんだ』って訳で、斯く斯く然々と説明すると、ニヤッと笑い『じゃあ俺が此処で個人授業をしてやる』と言い出し、ひとしきり二人で話しをしていた。

で、外せない宿題なので夜に、店に降りて行き旺文社文庫の、【チャーチル】という題を部屋に持ち返った。まさか全部を読むほど野暮ではないので、初めから数ページをパッパッと読み、【自由には責任が伴う】という箇所に目を付け、そのポイントで感想文を出しておいた。そしたら、みんなの前でその感想文を取り上げエライ褒められたが、そんな事よりその一文で自由に目覚めた瞬間だった。以来 15 歳の頃、『**すべての事から自由になって生きたい**』と思い、『**その様に生きる**』と決め**、そのようにして来た。**きっとこれが生きる者の最大の欲求だろうと思う。自由とはあくまで『自分の行動は自分で決める』ひとに良かれと思う事も自分で

決め、ひとからの頼まれごとも自分の意思で引き受けること。但し、**その意思決定は私というより、自分の中に起こる自分以外から流れ来るエネルギーに導かれているような気がしている。**

同じように、小学校を卒業間近授業で『こころは何処にあると思う』と教師がみんなに問いかけた。頭か胸かの二択だった。私は分からなかった。でもどちらかというと頭だと思い、頭に手を挙げた。そうすると後に京大工学部合格を蹴って慈恵医大に進んだ友達ひとり、胸にあると手を挙げた。彼曰く『その方が夢があっていい』と言った。さすがである。

最近、**『こころは身体の中には存在しない。こころは、自然界に存在するエネルギーに過ぎなく、身体の外から内を通り、また外に通過するエネルギー』**と、自分に出した宿題に、4 年前に提出した文章を発見した。

自由に生きようというテーマは今も変わらない。ところが、昨今その様子が少し変わって来た。先日久しぶりに飛行機を乗り継いで目的地に着く旅をした。めっちゃ疲れた。何故こんなにも疲れたのかと考え直すと、やはりマスク着用に纏わる緊張が疲れさせたように思う。新幹線で東京や九州に出掛けても、マスク着用を強要されることはない。また以前は、飛行機に乗っても空港勤務のスタッフに促され、機中では C.A.促され、ハイ ハイッと機嫌良く従って来た。

でも、今回の旅は少し様子が違う。みんなからのプレッシャーが凄い。マスコミが発表する数値は衆院選を前に、自民党が存続の危機感を持って来たのか減少して来ている。思うにこの現象の結果、ひとは自分たちの努力の成果だと捉え、何でもかんでもリバウンドという言葉で簡単に片づけてしまう人たちは、ここで、この数値を守ろうと頑張っているから、ある意味攻撃的になって来ているのではないかと想像してしまう。今までは『馬鹿なやつ』程度でやり過ごしてくれたが、『こういうやつのおかげで、また再拡大するんだ』という気が伝わって来て疲れたのだと思う。

大方の予想を裏切って、蔓延防止法に引き下げる事もなく、一気に全国一斉解除で平時に戻る。衆院選を前にすると数値が何故下がるんだ。何故緊急事態宣言や蔓延防止法だと、この時ばかりと存在感をアピールして来た知事連中も一斉に引き下がるんだ。友達は『これからコロナを利用して国民に言う事を聞かせる体制になるよ』と言うが、もう既になっている。

先月号で米軍がアフガニスタンから撤退してタリバン政権が復活したと書いたが、この進駐は 2001 年の 9 月 11 日に N.Y.で起きた事件直後に『テロとの戦い』と題した流れで、翌 10 月に始まった。そして 20 年経て撤退する事で終結した。米国というのは凄い国家で、どんな事柄も 30 年後にはすべて真実を正しい資料と共に公表するルールがある。もちろん国益に沿ってだが。

昨年秋にもトランプ前大統領がケネディ大領領暗殺の真相を公表する云々があり、1 年伸ばしで今年の 10 月に公表すると見送った。さあ、バイデン大統領はどうするのか、先日の撤退劇の中で『これからは米国の為にのみ軍事行動をする』とテレビで宣言していて、こんなこと言って良いのかと聞いていた。バイデン大統領はケネディ大統領と同じアイリッシュで個人的には、その大先輩の暗殺された真相を公表したいだろうなと思うが、米国や世界の様子を見ていると未だ無理だろうと思う。そもそも自らの国家が誰の傀儡国家なのか、また誰がオーナーで運営は誰がしているのかくらいは分かりそうなものだが。

もちろん、国家戦略上優位に立つ為のシナリオなので、その公表のルールも国家戦略上有意義でなければ見送られるのも当然だと思う。日本軍の真珠湾攻撃の真相は、米国側から昨年公表されていると聞いたが、調べても何処にも出てこない。

ただ、今回のコロナ騒動が何であるのかの公表は、今から 29 年後では、私は生きている可能性に乏しいので、これは公表される前に、この世とおさらばしているだろう。少し残念な気がするが仕方がない。市井のひとが市井の人を監視するイヤな世の中だ。

有限会社アルファー
吉田清一郎